日本遺族通信
令和7年12月15日
第900号
一般財団法人日本遺族会
〒102-0083 東京都千代田区九段南一丁目六番五号 九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389
編集発行人 盛川英治
毎月1回15日発行
定価 1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

常務理事会

平和の語り部事業計画承認

昭和100年施策に合わせ企画提案

11月6日、常務理事会が開催され、平和の語り部を主軸とする令和8年度予算の厳しい現状と今後の運動方法が示された。あわせて、令和8年に昭和元年から起算し満100年を記念する国の昭和100年施策に沿った事業計画が提案された。記憶の継承を普遍的課題と提起し、応えうる団体と周知する各種記念事業が了承された。

冒頭の挨拶で水落敏栄本会会長は、令和8年度予算が厳しい状況を明かした。語り部事業は、事業の意義、予算規模から組織の存続をかけた予算となるため、遺家族議員協議会総会、全国戦没者遺族大会に向け、本部支部一丸となった要望の徹底を呼びかけた。

本部は節目を意識した本事業の広報と各地の取組みを紹介。自治体での追悼式の関連講話、企画（パネル展示、日章旗返還式、朗読劇等）、体験者が次世代と共に取組む強みを生かした講話＋対話型、遺品、遺構を伝える講話、慰霊碑清掃や次世代、児童・生徒との朗読劇による体験型など各地の効果的な取組みが紹介され、9月末までの全国での実績は989回、学校での講話が昨年度を越え、最終的見通しを500回程度と示した。

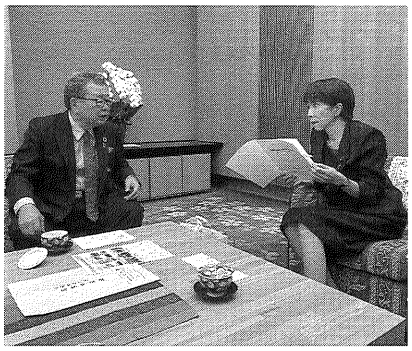
【令和8年度昭和100年事業計画】

官民をあげた「昭和100年施策」の主な施策として「それぞれの地域における歴史、戦争の悲惨さや労苦、人々の暮らし等を振り返ってそれに学ぶ」と示され、具体例に平和の語り部事業が取り上げられている。

そこで、昭和100年を戦争の記憶の伝承の重要性を普遍的課題と提起し、ニーズに応えられる団体と示す広報と育成を意識した事業計画として、各地の取組みを踏まえ、4月29日の昭和の日前後一カ月に全国で朗読劇の上演など7つの企画を提案し、了承された。

この他、令和7年度上半期収支、女性部研修会、本会戦跡巡拝の概要が報告され、了承された。

節目の年から昭和100年に向けて遺族会の意義が試される年度を控え、語り部事業を主軸とした本会の動向が注目される。


令和8年度予算について高市総理に要望する水落会長＝11月27日、総理官邸で

高市総理に面会

平和の語り部拡充を要望

11月27日、水落敏栄本会会長は、官邸で高市早苗内閣総理大臣に面会した。

女性初の総裁誕生から、野党が多数を占める国会において、初の女性総理に任命され、外遊、国会日程等の多忙な中で、ごくわずかな民間団体との面会の機会を得た。

水落会長は、就任のお祝いと9月の訪米に際し、遺族の心情を伝えるため米政府高官との面会実現への尽力に感謝を伝えた。その上で、慰霊に終わりはなく、恒久平和に寄与すべく、戦争の記憶の風化を防ぐため「平和の語り部事業」をはじめとする遺族会関連予算獲得を要望した。

高市総理は、戦没者への慰霊は国として当然であり、加えて語り部事業を含む遺族会の活動の意義を評価していると述べ、理解を示した。

九百号発刊に寄せて



日本遺族会会長
水落敏栄

900号発刊にあたり、購読されている皆様に心より感謝申し上げます。

800号を祝したのは平成29年8月号、本会会長2期目の私は、発刊当時の事務局長徳永正利先生（後の参議院議長）が印刷会社探しから、新聞八千部を背負って事務局に持ち帰り発送した労苦を綴ると共に、恒久平和を希求する本会の重責への覚悟と孫世代への組織継承に対する希望で結んでいました。

あれから8年、戦争の記憶を伝承する平和の語り部活動が事業となり、次世代青年部は、本年2月に47都道府県で結成され、会員は1万人余を数えます。

今夏8月15日、読売新聞1面トップ記事に本会の会員減少が大きく掲載され、NHK他、多くの機関でも報道されました。遺族が減少することは、至極当然のこと、平和な社会と喜ぶべきでしょう。

他方、遺族会は連綿と続けなければなりません。二度と戦没者遺族を出さないために記憶の伝承を次世代と共に後世代へ。全国における語り部の形態、育成への模索を本紙で伝え続けてまいります。1000号に向けて、さあ前進しましょう。

第70回奉納菊花展

大輪4菊に会長表彰

第70回「奉納菊花展」が、10月16日から11月5日にかけて、靖国神社で開催された。

境内の樹々が色づき始めた能楽堂前特設幄舎に、秋季例大祭に合わせて、菊花大輪が奉納展示された。

展示期間中は、国に尊い生命を捧げた戦没者をお慰めするため、靖国神社菊花奉献会加盟の4団体の会員が丹精込めて育てた大菊や盆栽が参拝者の目を楽しませていた。

11月28日には靖国会館で、奉納菊花展の表彰式が行われ、次の作品に日本遺族会会長賞が贈られた。

高山の女神　横澤藤夫
宝幸友愛　古田宏
聖光白峰　菅野盛行
靖國のあかり　山本美智子
（順不同 敬称略）

謹哀悼

中内桂郎氏 日本遺族会元評議員。高知県遺族会元会長。

令和7年11月28日、逝去された。86歳。告別式・葬儀は葬祭センター宮脇・高岡斎場で行われた。喪主は長女、竹村志保氏。

声なき声

この新聞が読者の皆さんに届く頃は、令和7年も残り僅かとなっていることと思う▼今年は終戦80年の節目であったことから各地で平和を考える催しが多く開かれた。国の補助事業に採択され二年目を迎えた遺族会の「平和の語り部事業」にも注目が集まった。利用した学校からは「広島、長崎で大きな被害があったことは知ってたけど、私たちの住んでいる町でも大きな被害に遭っていたんだと知ってびっくりした」という感想文が寄せられ、地域の記憶を伝える遺族会の語り部が伝わっていることを実感。各都道府県遺族会の努力に感謝したい▼天皇陛下は今年の誕生日の会見で「戦争の記憶が薄れようとしている今日、戦中・戦後の苦労を語り継ぐ活動が進められていることは『層意義深いものと思います』と述べられている▼まだ語り部として行動することに躊躇している遺族の皆さん、次世代に自身の体験を伝えましょう。午年は、新しいことに挑戦するのに適した年とされてます。遺族ががむしゃらに努力しなければ、戦没者の存在そのものが歴史上から消える危惧は否めません。戦争の記憶が途絶えた先に平和が維持できるとは到底思えません▼私は干支の猪にならって、水落会長が提唱される「遺族会戦後100年までの活動」を目指し、自身に出来ることを「猪突猛進」積み重ねてまいります。（M）

新年のお参りは靖國神社へ
令和八年
初詣
初詣・諸祈願参拝
神恩感謝・国家安泰・家内安全
厄除・社業繁栄など 受付中
行事等の詳細はホームページをご覧いただくか、社務所までお問い合わせください。
靖國神社社務所
電話 03(3261)8326(代)
公式ホームページ
https://www.yasukuni.or.jp/
靖國神社

平和の語り部
国際交流事業

記憶の継承「慰霊碑・語り部」
台湾、パラオ招聘者と意見交換

日本遺族会は、平和の語り部事業を通して幅広い世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを考える機会を提供している。終戦80年記念事業として実施された国際親善交流事業の主要企画である御殿場市・裾野市の慰霊碑管理の視察、御殿場市と浜松市における語り部披露、台湾・パラオ招聘者との意見交換等について紹介する。

前号に続き、国際親善交流の主要企画である慰霊碑視察、語り部披露、海外招聘者との意見交換会の詳細を紹介する。

静岡県で交流
地元遺族会と

本事業は、平和の語り部事業の先進県である静岡県御殿場市の慰霊碑管理、同市、浜松市の語り部の取組みを中核とした企画である。

○10月18日

御殿場市は二度と戦争のない社会を目指すため忠霊塔・慰霊碑のいわれを説明した「平和への道」標」の建立を進め、市内40カ所に設置し、あわせて「御殿場市慰霊碑ガイドマップ」を作成した。

この機運は県内全域に広がり県内約800基のうち昨年時点で約200基に設置された。今回はこのうち6カ所を視察した。

①富士仏舎利塔平和公園

同市出身のスーパー三徳の初代社長が私財を投じ、同社社員が勤労奉仕をして昭和39年に建立。塔にはインドネルー首相から贈られた仏舎利が納められている。同市出身の千柱が祀られており市遺族会も年1回清掃奉仕。仏塔に納まる肉親の位牌を手にしての説明に、招聘者は真剣に耳を傾けた。

②御殿場地区忠霊塔

御殿場小学校の構内に位置する忠霊塔は終戦30周年を記念し昭和50年に改修。同地区368柱を祀っている。地元商職工業組合により数年に一度清掃奉仕が行われている。忠霊塔近くには、位牌堂が設置されている。

③高根地区忠魂碑

大正初めに建立。昭和52年から翌年にかけ終戦33周年記念事業として全ての団体より寄付、協力を得て大改修された。西南戦争以降の127柱が祀られている。

④玉穂の忠霊塔

昭和15年に玉穂小学校創立50周年記念事業の一環として建立。戦後の占領下、撤去されそうになるも村民感情を受けて、「平和塔」として木の箱で覆い隠し、撤去を免れ、昭和27年講和条約発効により、再び元の白い姿を現し、現在に至っている。

毎年同小学校6年生に地域平和学習を実施。全員が作文を書き、追悼式には代表が奉読している。今年は終戦80年を記念し、千羽鶴献納も実施され大きく報道された。

勝又将雄支部長は「戦争は美化しない、しかし風化させない」と忠霊塔における平和学習の意味を語った。

⑤原里の忠霊塔

明治41年に建立。戦後、忠霊塔も併設。昭和59年コミセン建設に伴い忠魂碑として一新。脇には徴発軍馬慰霊碑あり。

地元原里中学校より広島への修学旅行で平和に対する学習を深めた3年生に、地元の戦争の歴史を教えてほしいとの依頼を受け、県語り部育成推進委員会横山委員長が、同校3年生に忠魂碑前で語り部を実施している。

⑥恒久平和祈願の碑

墓石の老朽化、遺族の減少に伴い協議し、令和5年6月に合同慰霊碑を竣工。建設費用は会員、地元財産区からの協力も得た。石碑には日露戦争以降の71名の戦没者の芳名が記されている。

6地区の慰霊碑視察に伴い、該当地区の支部長、役員は説明用資料を持参し、雨の中、丁寧に説明、対応にあたった。

その後、沼津市に移動し、第2回意見交換会を開催。横山県副会長より慰霊碑にまつわる語り部を披露。（内容は4面参照）

また招聘者代表2人が講演。台湾の張吉雄主任委員は紅毛港保安堂のいわれ（旧日本海軍の哨戒艇とその艦長を祀る）と台湾・バシー海峡に眠るすべての戦没者を慰霊し、これからも台日友好の懸け橋になりたいと語った。

またパラオ共和国ナトゥス・ミセアンガウル州知事は、先の大戦における激戦地となった同島では遺族、戦友、ボランティアによる遺骨収集、慰霊事業を受け入れる中で、友情が育まれた。これからも同事業に限りない協力と戦跡の保全に尽力すると約束した。

縣親会では招聘者から慰霊碑の視察に尽力した遺族会役員に感謝が述べられた。静岡県増田幹夫会長は、世界平和を希求する同志として交流を深めましょうと語り掛けた。

○10月19日

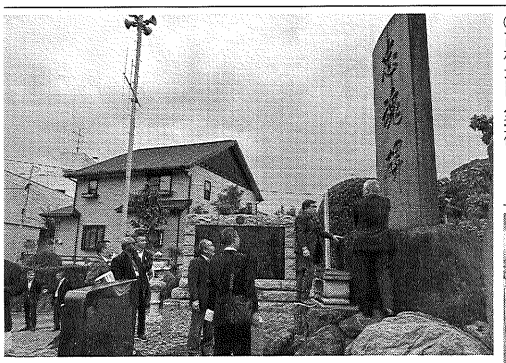
浜松市復興記念館を視察。同市遺族会等の講話を聴講。

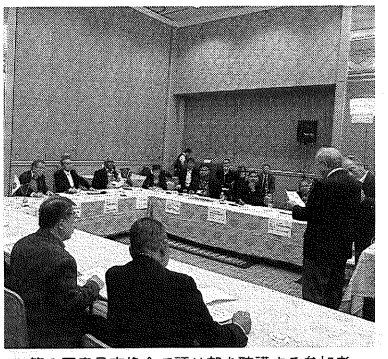
同施設を拠点にして遺族会や地域の語り部（かたり部の会浜松）を育成する大石功同市会長は、「体験者が伝え、次世代が繋ぐ場所を用意することが務め」と意義を語り、同市の協力に感謝した。

遺族会は地元に居住し不戦を主張した百武源吾の生涯を伝え、かたり部の会浜松は、地域の歴史・家族の歴史から戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えた。県議、市議も出席し、中野裕介浜松市長も駆けつけた。地元紙2紙にも掲載され、大きな反響を得た。交換会は飯田末夫県議はじめ、浜松市遺族会役員によって準備され、市遺族会と行政との良好な関係が円滑な会の実施に表れていた。

本事業を通し、日本人の慰霊に対する思いを理解した両国からは、慰霊碑への揮毫（台湾）の依頼、遺骨収集事業への協力（パラオ）等の声が寄せられた初の国際親善交流は成功裡に終了した。


御殿場小学校構内で忠霊塔の視察＝10月18日、御殿場市で


原里の忠霊塔の構造を説明する峪田徳康御殿場市会長
＝10月18日、御殿場市で


第2回意見交換会で語り部を聴講する参加者
＝10月18日、沼津市で



第3回意見交換会には浜松市長（前列右から4番目）も参加
＝10月19日、浜松市で

協議会開催
遺家族議員協議会総会

平和の語り部拡充強化
令和8年度予算陳情

自民党の遺族会応援団である議員連盟「遺家族議員協議会」総会が、11月28日、参議院議員会館会議室で開催された。

11月13日、総会に先駆けて水落敏栄会長は、同会逢沢一郎会長、田村憲久会長代行にそれぞれ面会し、来年度政府予算に対する本会の要望事項の最重点項目である平和の語り部事業は遺族会の意義、活動の根幹を示す事業で遺族会の存続にかかる極めて重要な事業であることを説明し、大幅予算拡充に理解を求めた。

総会には本会から水落会長はじめ、副会長、常務理事が、総務省から政策統括官等、厚生労働省から社会・援護局長等幹部が出席した。また、国会開会中にもかかわらず衆・参国会議員102人（本人40人、代理62名）が参集した。

冒頭、逢沢会長は、終戦80年の節目に、硫黄島をはじめとする旧戦域の遺骨収集、国内外の慰霊碑の状況をみつめ、記憶の継承「平和の語り部」の重要性を再認識、必ず拡充させる必要があると示した。

参集した議員からは、語り部事業の反響、体験者が話せる今、拡充する必要性、今年初めて実施した国際親善交流の意義、国内外の慰霊碑の管理状況への危惧、被災地における慰霊碑を語り継ぐ拠点としての再建など、多様な意見が出された。

厚生労働省鹿沼社会・援護局長は、語り部は最重点項目、その他要望事項の予算確保に全力で取り組むと回答。

最後に、田村会長代行は、語り部は地域慰霊を長年支えてきた遺族会にしか出来ない事業で、人・組織の支えがあってはじめて充実する。概算要求額の確保に全力で取り組もうと締めくくった。


遺家族議員協議会総会で平和の語り部事業の重要性を訴える
水落会長＝11月28日、参議院議員会館で

厚生労働大臣表彰

7年度援護事業功労者
本会関係36支部85人が受賞

令和7年度の援護事業功労者に対する厚生労働大臣表彰が12月1日、中央合同庁舎第5号館2階・講堂において挙行された。多年にわたり戦没者遺族、戦傷病者、中国からの引揚者等の援護事業に携わり功績が顕著な方々を含む94人が栄えある受賞に輝いた。

厚生労働大臣表彰式が12月1日、午前11時より中央合同庁舎第5号館2階・講堂で挙行された。

上野賢一郎厚生労働大臣の挨拶に続いて、司会者より被表彰者の名前が一人ずつ読み上げられると、栄誉を称える大きな拍手が沸き起こった。

被表彰者を代表して英ゆり氏（府中市中国残留邦人支援・相談員）へ上野厚労大臣より表彰状と記念品が授与された。

その後、来賓として挨拶に立った水落敏栄本会会長が、先の大戦が終結して今日までの長きにわたり、戦没者の遺族あるいは戦傷病者などの戦争被害者の援護救済と福祉の向上に力を尽くされた被表彰者の労をねぎらい、祝意を述べた。

最後に、被表彰者を代表して高垣靜子氏（兵庫県遺族会副会長、女性部長）が謝辞を述べ表彰式は閉会した。

式終了後、本会関係の被表彰者は、九段会館テラスへ移動し、同館4階日本遺族会「桐の間」において、本会主催による厚生労働大臣被表彰者祝賀会に出席した。

水落会長が挨拶し、被表彰者を代表して高垣氏が謝辞を述べ、盛川英治日本遺族会事務局長の乾杯発声に続き、祝賀会が栄えある受賞者を祝福し、和やかなひと時を過ごした。

表彰された本会関係者の方々は次のとおり。

（敬省略）

【北海道】安保勲、福村正見、矢野一男、土本勝昭【青森県】西村千代治、記田慶市、藤井ツナ、小林義明【岩手県】坂本昭一、上部修一【秋田県】武藤啓司、浜田セチ子【宮城県】關寛基【福島県】岩渕康晃、藤塚三清【山形県】阿部清一、阿部博子、衣袋捷二【東京都】盛川英治【神奈川県】飯高昌子、安田宗弘【千葉県】宇田川道惠、大塚勝幸【埼玉県】吉津長子、茂木秀夫、小林克己【茨城県】鈴木繁、齋藤軍一、根本清、井坂悦司【静岡県】鈴木康市、中野秀男、山田繁雄【栃木県】稲寿【山梨県】杉原五十子【石川県】南義勝、林道子、山本定夫【福井県】小川公一、木村清、三上直美【愛知県】加藤美子、山口一重、鈴木あけみ、伊藤三春【滋賀県】田畑啓之助【和歌山県】西本とよ子、磯貝靖弘、宮井克爾【大阪府】槇野旬子、淺田和子、古谷善一、山口一郎、中谷忠三【兵庫県】高垣靜子、河野朱實【鳥取県】米田寛、藤原成雄【島根県】三谷和久、三宅浪子、仲佐芳巳、舟木清【広島県】御堂岡勝敏、平田泰宣【山口県】岡野洋典、井上春彦【香川県】真部孝、川上春信、岩崎千惠子【徳島県】長江廣子、井上忠明、坂千代克彦【愛媛県】古田昌子【福岡県】松尾博徳、鬼木康弘【佐賀県】永濱洋、山口宏之【大分県】前田和治、丹生文雄【熊本県】岩崎己智男、山部征三【宮崎県】宮本紀昭【鹿児島県】築地カオリ、向井テルヱ、黒木義廣



援護事業功労者表彰式で祝辞を述べる水落敏栄本会会長＝12月1日、厚生労働省で



被表彰者を代表して上野賢一郎厚生労働大臣に謝辞を述べる高垣靜子氏＝12月1日、厚生労働省で

平和の語り部

学校側の要望に沿って
各地の語り部の取組み

今年度の語り部事業は（11月末時点、予定含む）1500回を超えた。各地域で児童・生徒に、より伝わる内容を目指し模索が続けられている。学校側の要望に沿う「遺族会だからできる語り部」の一端を紹介したい。

○講話型＋対話型

児童・生徒の集中できる時間を考慮し、地域の歴史、体験談、質疑応答と各10分程度で転換。身近な遺構として慰霊碑・忠霊塔を伝える。千人針や召集令状、手紙など実物をみせることで戦争が今の時代と地続きと伝える。（石川県、鹿児島県他多数）

また質疑応答を加えることで、児童・生徒が自分事として考える機会とする。（秋田県、東京都、神奈川県、埼玉県、福井県多数）

○体験型＋対話型

慰霊碑前での講話、清掃と共にいわれを伝えるなど（静岡県、高知県、滋賀県、宮崎県）地域の遺構を伝える体験型と共に、今年は佐賀県提供の朗読劇を遺族と次世代、児童・生徒が共に上演する形態が広がった。（熊本県他多数）こうした動きに触発され、地域独自の紙芝居、寸劇などが模索されている。（北海道）

上演後、事後学習シートを使用し、対話型の質疑を実施することで理解が深まる工夫も。

講話・対話・体験の組合せにより、理解を後押しする語り部となっている。

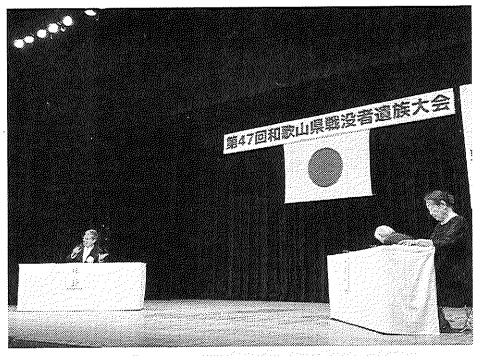
○自治体の協力

本事業の更なる普及には自治体の理解が不可欠であり、追悼式の機会に関連企画として講話をし、広報することが重要だ。（北海道、千葉県、静岡県、兵庫県多数）

11月8日、福岡県主催平和講演として田中玉喜本会女性部長が語り部を披露した。当初8月に計画されたが、豪雨により延期となっていた。知事、県議会議長出席の大規模な講話会は、県庁の意識の高さが伺える。

○青年部の取組み

本事業は青年部の役割が大だ。各地の学校講話に青年部が参画しているが、さらに多くの語り部が重要となる。そのため、体験者の記憶の聞取りが進められているが、遺族大会後に青年部企画進行の座談会を実施した和歌山県は大きく報道された。今後も試行錯誤は続く。



遺族大会後に青年部企画の座談会を進行する野井和重部長＝10月5日、和歌山県で

厚労省で拝礼式挙行
トラック諸島判明遺骨

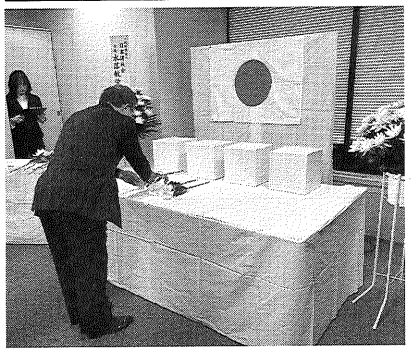
11月14日、厚生労働省中央合同庁舎5号館で、「令和5年度トラック諸島（沈没艦船）現地調査・遺骨収集派遣拝礼式」を挙行した。

拝礼式には、伊澤知法大臣官房審議官をはじめ遺骨収集事業担当の厚生労働省職員、日本戦没者遺骨収集推進協会代表が参列し、本会からは水落敏栄会長が代表で献花した。

今回DNA鑑定の所属集団判定により日本人の遺骨であると判定されたのは、令和5年10月にトラック諸島モエン島海域の沈没艦船「神国丸」から収容された海没遺骨4柱であるが、身元の特定には至っていない。

厚生労働省は、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定を実施しており、遺族からの申請を受け付けている。鑑定に掛かる費用は国の全額負担となる。

DNA鑑定申請に関する問い合わせは、厚生労働省DNA鑑定担当まで（℡03-3595-2219）


日本遺族会を代表して献花する水落敏栄会長＝11月14日、厚生労働省で

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

賛同者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）

中島百合枝、宮田喜美子、山岸正昭、深澤英樹、松下ユサ子、コガトシロウ（以上、11月1日から11月末日まで）

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等のさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替 00130-2-69492930

●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0980930

※口座名は一般財団法人日本遺族会（ザイ）ニホンイゾクカイ

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

平和の語り部

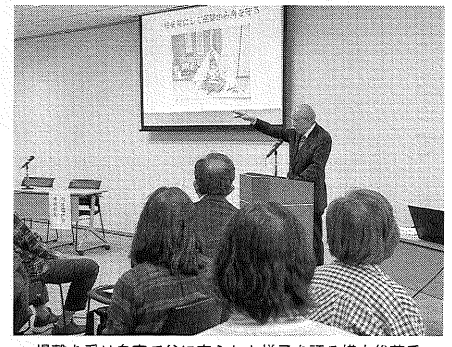
第9回定期講話会を開催
慰霊碑から考える戦争の記憶

戦争体験者の遺族と次世代が共に記憶の伝承に取組む遺族会の語り部の普及、拡大のための本部主催第９回定期講話会は、前回に続きテーマは「戦争遺構」。慰霊碑から考える講話と体験者の記憶の聞き取り座談会を開催。10月に実施された国際親善交流もあわせて報告。慰霊のあり方、次世代への伝承を話し合った様子を紹介する。

11月9日に開催された第９回定期講話会は横山俊英静岡県遺族会副会長による講話が披露された。静岡県は語り部先進県として県内各地で学校での講話が盛んにおこなわれている。中でも御殿場市は、二度と戦争のない社会を目指すため「忠霊塔・慰霊碑」のいわれを周知することを積極的にすすめ、現在では県内各地に拡大しており、横山氏は慰霊碑前での講話を進める御殿場市の中心的存在である。

昭和16年生まれの横山氏は戦争の記憶を紹介。軍事物資を扱う富士紡績があった地元小山町でB29の機銃掃射により自宅が破損。防空壕に逃げる暇なく自宅で柱を背に布団をかぶった父に守ってもらった臨場感あふれる話に参加者は息をのんだ。

また、3人の息子を戦争と結核で亡くした祖父（戦没者の親）の悲しみを伝え、国家に一命を捧げた戦没者を顕彰するため忠魂碑建立にかけた思いや骨壺に収められた遺骨に代わるとされた紙一枚に憤怒し号泣した様子に一同涙した。



爆撃を受け自宅で父に守られた様子を語る横山俊英氏＝11月９日、九段会館テラスで

また出征後生まれ、父も母も失い兄弟として共に育った従弟が初めて父の戦没地で慰霊し、「お父さん」と呼びかけた様子を語り悲劇を繰返してはならないと語気を強めた。

そして息子の遺品を大切に保管し話を聞かせてくれた祖父に倣い、自宅を改装した遺品展示室が紹介された審祖を視聴した。

座談会は、忠霊塔、海外慰霊等について、学生が続ける意味を伝えた。

また硫黄島の遺骨収集を紹介した遺族は、高温多湿な壕で、「手に触るものすべてが遺骨かもしれない」との体験を伝えた。

また、次世代からはパプアニューギニア大使の「遺族の気持ちに沿い、国として御霊を弔う」との発言も紹介された。初めて参加した親子は「家族の話として繋げてゆきたい」と話し講話会の広がりを示唆した。

次回12月7日、次々回1月11日の予定。

語り部育成等を課題に
徳島県で事務局長等研修会

10月29日、30日、事務局長・事務局職員研修会が徳島県で開催された。

冒頭水落敏栄本会会長は、組織の継承対策として平和の語り部事業を推進し、人材育成と活動の充実のため予算の大幅増額を要望、各支部の活性化につなげたいと述べた。

研修会では、「平和の語り部事業」と「国内民間建立慰霊碑調査事業」をテーマとし、本部事務局がそれぞれ説明した。

「平和の語り部事業」については、予算獲得と確実な実施を目指した令和7年度末から8年度にかけての事業計画を提案し、予算の大幅増額に伴う学校等での講話回数の具体的な目標数を示した。

そして、より多くの語り部活動者の育成の協力を求めた。また、補助金の適正な執行と事務作業の効率化について基本的な考え方を説明し、各支部からは補助金の使途等について質問が相次いだ。

「国内慰霊碑調査事業」の実施は、遺族会の意向が反映される形で、将来的に慰霊碑の管理の在り方を自治体等と検討するために、調査結果が重要な資料となることを説明した。

研修会の最後に、坂千代克彦徳島県遺族会会長が挨拶し、「語り部は遺族会活動の継承として重要であり、青年部の育成など各地でしっかりと取り組んでもらいたい」と締めくくった。



「平和の語り部」を主たる事業とした組織継承・活性化について語る水落敏栄会長＝10月29日、徳島市で



国内外の慰霊碑をテーマにした座談会＝11月９日、九段会館テラスで

父母上様

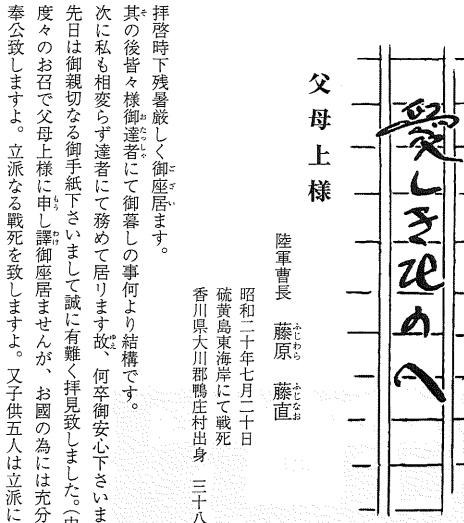
陸軍曹長　藤原　藤直

昭和二十年七月二十日
硫黄島東海岸にて戦死
香川県大川郡鴨庄村出身　三十八歳

拝啓時下残暑厳しく御座居ます。
其の後皆々様御達者にて御暮しの事何より結構です。
次に私も相変らず達者にて務めて居ります故、何卒御安心下さいませ。
先日は御親切なる御手紙下さいまして誠に有難く拝見致しました。（中略）
度々のお召で父母上様に申し譯御座居ませんが、お國の為には充分に御奉公致しますよ。立派なる戦死を致しますよ。又子供五人は立派に教育を付けて下さい。
又大節には致しては成りません。教育又仕事は一生懸命使つて下さい。仕事は親がないと思ひて、私のかわりと思ひて使ひなさい。春雄もさすが一人の弟可愛想です。神戸よりはるばる横浜迄、遠い〳〵所へ面會に、來て下さいましたので、私も心残りは有りませんよ。
では皆々様、御身御大切に御働き下さいね。
父母上様、サヨナラ
藤原新九郎様

藤原藤直

【令和七年十二月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ



九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

黄に輝く銀杏並木に歩を止めぬ靖國神社の参拝の帰路に

千葉県　石橋　孝子

八月の十五日の朝墓参り世界の平安幾重にも祈る

山梨県　三森　一雄

戦地より笑う様になったかと手紙がきたと亡母から聞きし

滋賀県　雨森　貴子

戦地にて父の日記に綴られしふる里の景色に短歌を添えて

長崎県　安原　恭子

◇

早や師走を迎えましたが、今年も内外ともに多事多難な一年でありました。また、先の大東亜戦争終結から八十年という節目の年でもありました。靖國神社におきましては、全国の遺族会をはじめ、各県神社庁支部、神社総代会等々多くの方々がご参拝に訪れ、併せて遊就館を拝観されました。我が国の人口構成で戦後生まれの割合が九割を超える現在、英霊達の遺された崇高なる至情を戦争を知らない世代へ正しく語り継ぎ引き繋いで行く事が靖國神社・護國神社にとって重要な務めであります。遊就館では今年約四半世紀ぶりに展示内容を若い世代の方々にも理解し易い内容にリニューアルを致しております。日本遺族会に於かれましても平和の語り部事業が推進され、体験談の講話や朗読劇、記憶の聞き取りと記録等々、活動は拡がりを見せておられます。これからも遺族の方々と共に英霊顕彰に邁進していく所存でございます。（選者）

地方だより

▼滋賀県　10月12日
令和7年度滋賀県戦没者遺族大会（450人）

▼愛知県　10月15日
戦後80周年記念令和7年度愛知県戦没者遺族大会（300人）

▼山梨県　10月16日
令和7年度県下戦没者遺族大会（500人）

▼長野県　10月17日
第73回長野県戦没者遺族大会（550人）

▼北海道　10月21日～22日　令和7年度全道女性部研修大会（72人）

▼岩手県　10月25日
第69回岩手県戦没者遺族大会（700人）

お詫び

11月発行の第899号で、次の誤りがありましたので、訂正し、深謝いたします。
・4面「九段短歌」で、青森県・田中恭子様の短歌を「母は動く」と記載しましたが、「母は働く」の誤りでした。